

令和5年新年号

支え合う仲間

第8号

発行
林病院OB会

発行責任者

浅口市金光町八重190-1
加賀純雄
TEL090-9410-3593

令和五年新年あいさつ



林病院OB会会長
加賀純雄

お世話になっております林病院OB会会長の加賀純雄です。コロナ禍で林病院OBの皆様、林病院北二病棟入院中の患者の皆様におかれましては様々なご苦労の中で断酒生活・入院生活を過ごされたことと存じます。

無かつたら、断酒が継続出来普通の生活が送れている今の私はありませんでした。コロナ感染症で様々な制約を受けるコロナ禍でも断酒を志す仲間をつくる事は出来ます。

林病院OB会として、何が出来るかを考え「少しでも断酒するきっかけになれば」との思いから林病院OB会機関紙「支え合う仲間」の発行を続けて来ました。

一人での断酒は難しいです。酒で苦しんだ体験を多くの仲間と話す事で、酒で苦しんでいるのは一人では無いと気づきます。

私たちが林病院OB会は、断酒を考える酒害者を支えるため、今何が出来るかを考え様々な取り組みを進めていきたいと思えます。

今年も宜しくお願ひ致します。

先生・スタッフ・多くの仲間と話し、

令和五年新年互礼会に参加して



玉野支部
前田吉則

令和五年一月二日、サントピア岡山・総社で開催された新年互礼会に二度目の参加をさせて頂きました。冒頭、秋葉理事長の新年のご挨拶を頂き、その後体験談に移りました。体験談は林病院OBの小川千恵子さん(岡山東支部)と私、前田吉則(玉野支部)でさせて頂きました。新年早々多くの人の前で体験談をする貴重な機会を頂き身の引き締まる思いと緊張とで複雑な気持ちでした。

飲酒当時、年始といえればあまりする事もなく、朝から酒を飲みテレビの前で寝転がっていたような正月休みを過ごしていました。

断酒会に入会させて頂いてから酒を飲まず元気な体で新年互礼会に参加させて頂き、多くの仲間と顔を合わせることで、この一年断酒生活を頑張ってきたという気持ちになりました。仲間の支えで新たな年も酒のない生活を送りたいと思えます。



新任職員紹介



北二病棟
ソーシャルワーカー
宮武瑞希

OB会員の皆様、断酒会員の皆様、ご家族の皆様、はじめまして。

昨年の9月からアルコール専門病棟を担当しております、ソーシャルワーカーの宮武瑞希(みやたけみずき)と申します。以前は急性期病棟を担当していました。

アルコール医療については、病棟ARFに参加したり、患者さんやご家族のお話をきかせていただいたりしながら、日々勉強しております。

患者さんやご家族、断酒会員の皆様の話聞かせていただくと、酒害だけではなく、その方やご家族の人生にふれる瞬間があり、こころ揺り動かされる事が多くあります。人生に寄り添う尊い仕事だからこそ、OB会員の皆様、断酒会員の皆様とつながりながら、ソーシャルワーカーとして、どのように患者さんやご家族の人生・回復の過程に関わっていくのかを考え続けていきたいと思えます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

最後になりましたが「支え合う仲間」への寄稿の機会をいただいたことに感謝申し上げます。



全国大会に参加して

岡山断酒新生会会員

十月十六日(日)に天理市と公益社団法人全日本断酒連盟主催で行われた第五十九回全国(奈良)大会に参加しました。テーマは「断酒

で築く豊かな未来」、サブテーマは「仲間とともに一日断酒」でした。

私は日帰りの旅行に行く様な気持ちでバスに乗っていましたが、断酒の大会であるので、酒を飲む事をしない旅行なんていつぶりだろうと考えたりもしていました。

会場に着くと元総理事の事件があった奈良県というところで、現役の大臣が来られるからだと思つのですが物々しい警備でした。

会場入口には飛行機の搭乗ゲートにある様な金属探知機があり、そこを通らないと中に入らず、手荷物確認もされ、至る所にSPらしき人も居ました。中に入ると大勢の人達が居て、この人達の殆どがアルコール依存性なのかと少し驚いていました。でも思ったのは、この人達がアルコール依存性という事を知らなかったら、単に何かの大きな大会で、何処にでもいる人達が集



まっているだけの様にも思えました。大会が始まり来賓の方々の挨拶や祝辞があり、そして体験発表がありました。アルコール依存性本人と家族の発表がありました。その発表が私には一番頭に入ってきて、旅行気分から断酒の大会であるということを感じていました。午前、午後の部とあり休憩を入れて約五時間半開催されていたので、開催中は長いと思つていましたが、終わってみればあっという間だった気がします。

大会も終わり家路に着きますが、その時私は入院中だったので家路ではなく帰院し、疲れていたのか余り何も考えず寝てしまいました。

翌日以降に、大会の事を時折思い返していました。その中で思ったのは、「私も断酒ができるのではないのか」という思いを強くしていることという事でした。

なぜなら、あそこ会場には何千人という断酒をしている人達が居て、又は酒

を止めたい人が居て、それを強く感じられた事を思い返し、あそこに居た人達は何も特別な存在ではなく、酒を止めるという考えで集まり、私とさほど変わらさず何処にでも居る人達だと感じたからです。酒は止められると自分自身に強く言い聞かせる事と、止める行動をする事しかないと思う様にしました。考えるのが先か、行動するのが先か、行動すれば考えが付いてくるのか、考えたから行動するのか、どちらを先にすれば良いのかはわからない

いですが、でも止める考えがなかったら行動しても変わらないとは私は思います。

以前は、ごく身近に断酒されている方々が居たのに、その断酒されている方々は、何か私の知らない酒の止め方があり、私とは何か違うのだと思つていた節があった様に思います。

それが全国大会に参加させて頂き、断酒に対する一つのきっかけにはなりました。

しかし、一人の力だけで断酒は難しいので、孤独にならぬ様に今後も新生会の仲間と一緒に頑張つて行こうと思

います。今後どうなるかは自分自身わかりませんが、先を考えたら途方もなく長く不安になります。ただ一日断酒だけを考え、そうすればいつかは回復していくのではないのかという思いで毎日

林病院OB会 二〇二二年忘年会開催

二〇二二年十二月十八日岡山東公民館に於いて、林病院OB会忘年会を開催されました。二十二名の林病院OB・ご家族の方が参加されました。昨年は、前田先生をはじめスタッフの方々の参加があり、参加者の元気な姿を見て頂き「入院当時の「はなし」「退院後の「はなし」「近況報告」等有意義な時間を仲間と過ごす事ができました。

今年、コロナ感染症拡大により林病院からの参加は残念ながらありません

したが、十月二十六日の林病院院内断酒例会発足四十五周年記念集会以来久しぶりの再会で自然に話が始まりました。「院内例会の「はなし」「断酒したきっかけ」等仲間だからこそ本音で話が出来、親睦を深めることが出来ました。また、今年

は一名の方が新たに林病院OB会に入会されました。

二〇二三年もコロナ感染症に、林病院OB会行事の開催も左右される一年になりそうですが、現状の中で創意工夫し取り組んで行きます。



お知らせ

林病院OB会二〇二三年度
レクリエーション開催について

コロナ禍、昨年より林病院OB会レクリエーションが再開されました。昨年は、林病院OB・家族二十五名の方が参加されました。今年も、林病院OB・家族の親睦を深め、また会を盛り上げる為楽しい企画を考えておりますので、皆様ふるってご参加下さいませ様お願い致します。

日時 二〇二三年四月十五日

十一時~十四時

場所 操山公園里山センター

※状況によっては、日時・場所等が変更になる場合があります。その際は、追ってご連絡いたします。